

## 多自然川づくり取り組み事例

タイトル：水辺の小わざから10年～魚道改善の効果検証と今後の展開～		
水系/河川名：－	河川分類：中小河川	
河川の流域面積：－km <sup>2</sup>	整備計画流量：m <sup>3</sup> /s(W=1/)	セグメント：
事業：その他	事業開始年度 平成18年度	
目標設定：0	段階：0	
課題・目的(主な)：縦断的連続性の保全・再生・創出		
工法(主な)：魚道、落差工、帯工等の整備		
配慮事項(主な)：その他		

### 背景・課題、目標設定

#### 【背景】

- 川の中の生きものにとっての環境の悪化
  - ①固定堰等により川の連続性が分断
  - ②“従来型魚道”は小型魚類等が遡上不能
- 公共事業の減少
 

環境改善対策(大規模な改修)を講じるための公共事業費が縮減  
⇒ 山口県が管理する河川の生物に適した、効率的な改善策として『水辺の小わざ』が誕生(平成18年)

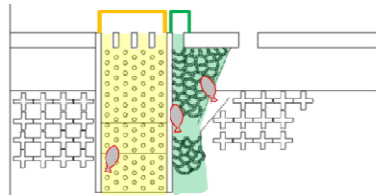
#### 【課題】

・水辺の小わざで整備した魚道について、定量的な評価がない ⇒ 小わざに否定的な意見も存在

#### 【目標設定】

・水辺の小わざの有効性を定量的に示し、同様の対策が有効な箇所での整備を促進 ⇒ 川の連続性確保

### 取り組み内容・対策例



#### 【検証内容】

「従来型魚道」と「小わざ魚道」の比較検証を実施

- ①アユがどちらの魚道を遡上するか

#### 【検証の結果】

- ①アユは圧倒的に多く「小わざ魚道」を選択
- ②アユ以外の魚やエビも、大半は「小わざ魚道」を選択

#### 【考察】

「小わざ魚道」は多様な流況を創出したことが有効に機能

### モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

#### 【アピールポイント】

経験的に工夫してきた「小わざ魚道」に対して、

長い間絶版でしたが、内容を追加して2016年8月に販売開始しました

#### 【今後の対応】

- ①検証で得られた評価結果を活用して、小わざ魚道での環境改善が適当な箇所での対策実施を進める
- ②正しい「小わざ」の活用方法を伝承  
(各現場での工夫、多自然川づくりの正しい理解等)
- ③施工済箇所でのフォローアップ



「小わざ魚道」で創出された多様な流況



### 備考

問い合わせ先 山口県 土木建築部 河川課 事業班  
電話番号 083-933-3779